



2023年2月14日

各 位

会 社 名 ダントーホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 加 藤 友 彦
(コード番号5337 東証スタンダード)
問合せ先 総務部長 田 中 靖 久
(TEL (06)4795-5000)

営業外収益、営業外費用、特別利益の発生及び 通期連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

2022年11月14日に公表いたしました2022年12月期通期連結累計期間の業績予想値と実績値との間に差異が生じ、また、当連結会計年度において発生した営業外収益、営業外費用及び特別利益の発生について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 営業外収益の内容

為替差益

第3四半期連結累計期間において、324百万円の為替差益を計上しておりましたが、外国為替相場が円高に推移したことにより当第4四半期連結会計期間において45百万円の為替差損を計上し、当連結会計年度において為替差益は279百万円となりました。

2. 営業外費用の内容

持分法による投資損失

第3四半期連結累計期間において、322百万円の持分法による投資損失を計上しておりましたが、当第4四半期連結会計期間において26百万円の持分法による投資損失を追加計上し、当連結会計年度において持分法による投資損失は348百万円となりました。

3. 特別利益の内容

建物解体費用引当金戻入額

2020年12月期に宇都宮工場跡地に係る建物解体費用見積額728百万円を引当金として計上しておりましたが、当第4四半期連結会計期間において解体工事が完了したことを受け、解体費用見積額との差額19百万円を建物解体費用引当金戻入額として特別利益に計上いたしました。

4. 2022年12月期通期連結業績予想値と実績値との差異（2022年1月1日～2022年12月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	4,500	△ 930	△ 1,010	△ 320	△10円79銭
今回発表実績（B）	4,644	△ 1,044	△ 1,082	△ 370	△12円49銭
増減額（B－A）	144	△ 114	△ 72	△ 50	
増減率（%）	3.2	—	—	—	
（ご参考）前期実績 （2021年12月期）	5,018	△ 898	△ 1,031	△ 967	△32円61銭

5. 差異の理由

2022年12月期通期連結累計期間の業績につきましては、タイル事業においては、販売体制の強化及び指定力の向上に努めるとともに、これまで取り組んで参りました販売価格や運賃制度の改定、指定力の向上、高付加価値商品の拡販等の施策の成果が表れ、売上高においては117百万円、前回予想値より上回りましたが、原材料、燃料及び運賃等の急激な高騰など、引き続き非常に厳しい状況にあり、また、2022年7月1日付で新設した連結子会社ダントーテクノロジーズ株式会社及び同年11月1日付で全株式を取得し連結子会社化した株式会社日本高分子材料研究所の研究開発活動を前回業績予想値より販売費及び一般管理費に多く計上したことにより営業利益においては150百万円下回る結果となりました。

不動産事業においては、世界的な物価高騰を背景とする主要各国の急速な利上げにより、海外投資家を中心に不動産投資に対する慎重な姿勢が見られつつあるものの、国内については、今後も金融緩和政策が維持される可能性が高く、主要各国に比べ相対的に高い利回りを確保できると考えられており、円安も相まって海外投資家の日本に対する注目度は依然高い状況にあり、当社の主要顧客である海外投資家についても、渡航制限の緩和を受け、投資の再開に向けた動きを見せており、依然として投資家の基準に合致する良質な売却物件が不動産市場に供給されることが少ない中、新規のアセットマネジメント業務及び運営コンサルティング業務を受託し、売上高27百万円及び営業利益37百万円、前回発表予想値より上回る結果となりました。

これらの結果、売上高については144百万円、前回予想値より上回りましたが、営業利益については114百万円、前回予想値より下回る結果となりました。

経常利益については、当第4四半期連結会計期間において為替差損45百万円、持分法による投資損失26百万円を営業外費用に計上することとなり、前回発表予想値を72百万円下回りました。また、当第4四半期連結累計期間において、2020年12月期に宇都宮工場跡地に係る建物解体費用見積額728百万円を引当金として計上しておりましたが、当第4四半期連結会計期間において宇都宮工場跡地の解体工事が完了したことを受け、解体費用見積額との差額19百万円を建物解体費用引当金戻入額として特別利益に計上しましたが、親会社株主に帰属する当期純利益は、前回発表予想値を50百万円下回る結果となりました。

以上